



Hanazukayama-Fujisan Challenger

ふ るさとを富士山の見える北限の町にしようと、菅野さんと挑戦を始めたのは、もう7年も前になります。私は、計36回花塚山に登り、幸運にも平成28年11月26日に花塚山から富士山をとらえることができました。この日は、それまで経験したことがないほど空気が澄んでいるような感覚がありました。天気の良いさはもちろん、風もなく、遠くの山々の稜線もいつもよりさらにくっきりと見えていました。いつも通りに撮影を終え、下山し、撮影した画像を処理していると、田代先生のシミュレーションと同じ位置に富士山のようなものが写っていました。この時は「これが富士山かな」という半信半疑の気持ちでしたが、田代先生から、「間違いなく富士山」との一報が入ったときは、何とも言えない感動を覚えました。これはもう男のロマンと言うしかないのですが、挑戦を始めたころは、カメラも持っていない、菅野さんが撮影に成功する瞬間に立ち会えば良いなと思っていました。しかし、次第に、富士山の魅力に取りつかれ、いつからか自分でもカメラを構えるようになりました。今回撮影した富士山は、はっきりとした富士山ではありませんが、ふるさとに明るいニュースを届けられたことが何よりも嬉しいです。今は、ただ、ただ、挑戦してきた仲間と喜びを分かち合っています。



▲平成28年11月26日に斎藤さんが花塚山から撮影した富士山

なぜ富士山が見えるのか？

遠く離れた富士山が、なぜここ川俣町から見えるのか。理論上は北限と言われた花塚山からの撮影がなぜ困難だったのか。日本地図センター常務理事で、富士山をこよなく愛す田代博さんに聞いた。



地球は丸いため、富士山が見えるのは地表からだとして236キロ離れた場所が限界です。

しかし、実際にはそれ以上離れた場所でも、観測する場合は地表より高い場所（山頂など）であれば、その高さに応じて富士山が見える距離は伸びます。

また、花塚山のように富士山からの距離が長い場所から富士山を望む場合は、大気差という現象も重要に

花塚山からの距離 なんと308キロ！

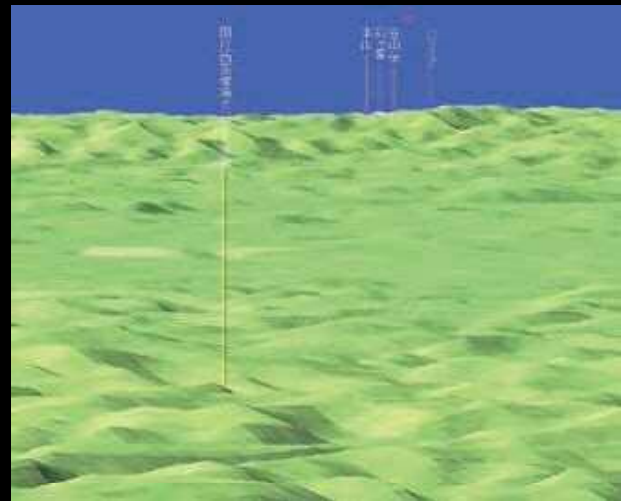


Hanazukayama-Fujisan Challenger

菅野さんや斎藤さんの挑戦に触発され、北限の富士山撮影に挑戦し始めたのは、平成23年1月のことでした。小さい頃から天体観測が趣味だったため、カメラは持っていましたが、登山に関しては全くの素人でした。登山経験豊かな2人からアドバイスをいただいたおかげで、過酷な冬山での挑戦も、安全に続けていくことができました。今回、平成23年12月に私が撮影した写真にも富士山が確認されましたが、当時は、自分でも検証できるものではありませんでした。くっきりと写る富士山をなんとか撮影しようと挑戦を続けてきましたが、PM2.5や温暖化などの影響か、近年は安定した澄んだ冬空にならない日が多くなっていました。そのため、今季の挑戦が終わったところで、これまでの写真を田代先生に検証してもらおうということになりました。そんな中、平成28年11月26日に、菅野さんと斎藤さんがチャレンジし、私が見ても「これは富士山である」と確信が持てる写真を撮影しました。当日は気象条件が良かったようで、私も挑戦しなかったことをとても後悔しましたが、何はともあれ、長年の挑戦が実ったことはとても喜ばしいことでした。私も、この挑戦を通して、素晴らしい経験をさせていただきました。同じ夢を追い続けてきた2人には、心から感謝しています。

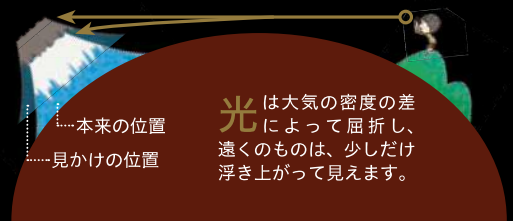


▲平成23年12月11日に大槻さんが花塚山から撮影した富士山



▲パソコンソフト「カシミール3D」による花塚山から見た富士山のCG (気差係数 1.175)

▼大気差をイメージした図



なっています。
光は大気中を通る時、大気密度差による屈折率の違いのために、直進せず曲がってしまうからです。このため富士山が本来の位置より「浮き上がって」見えるのです。
このように富士山の遠望には様々な要因が関わってきますが、パソコンソフト「カシミール3D」による試算の結果、富士山から308キロ

離れた花塚山が、北から富士山が見える限界だとされていました。しかし、花塚山からの富士山の撮影は、山頂がごくわずかしか見えないうこと、何より300キロ以上離れており、様々な気象条件に恵まれなければ撮影が極めて困難であることから「花塚山が富士山の見える北限である」ということを証明するまでには7年の月日がかかりました。